

市民・各種団体等から寄せられた基幹博物館整備に関する意見・要望

1 市民

(1) アンケート調査結果

資料 1-5 参照

(2) ワークショップ成果

ア 新しい博物館について みて・考えて・語り合うワークショップ（平成 28 年 1 月 2 月開催）

資料 1-6 参照（会議当日配布予定）

イ 松本市立博物館ワークショップ（平成 19 年 2 月・5 月開催）

資料 1-7 参照

2 地元要望

(1) 町会長会や意見交換会等

ア 館の位置付けについて

- ・旧態然の博物館のイメージを打破し、既成概念から飛び出した博物館にし、市民が利用する博物館にしてほしい。（28 年 9 月地元会議）
- ・地元としては地域の活性化に資するものを欲している。その考えの中で、リピーターの獲得が最も重要だと考える。（28 年 10 月地元会議）

イ 展示について

- ・新博物館には、浮世絵とかを展示し観光客にうったえてほしい。（28 年 6 月中央地区町会長会）
- ・映像を使う展示をしてほしい。（28 年 10 月地元会議）

ウ サービスについて

- ・市民が自由に使えるカルチャーセンターのようなフロアを設けたらいいか。（28 年 10 月地元会議）

エ 建築について

- ・バスの駐車場は他所にもっていても、発着所・乗降所だけは用地の一部を使い、確保していただきたい。（28 年 6 月中央地区町会長会）
- ・バスタ新宿のように、屋上にバス駐車場を設け、シャワー効果を狙うことはできないか。（28 年 7 月地元住民説明会）
- ・博物館の建設により、千歳橋からの天守の眺望が遮られないようにしていただきたい。（28 年 9 月地元会議）

オ その他

- ・工事車両の出入り等が心配。（28 年 7 月地元住民説明会）
- ・イメージ図を示した上で、建設に着手していただきたい。（28 年 7 月地元住民説明会）
- ・7,000~8,000 m²という枠の中で議論が進んでいるようだが、規模を見直すことはできないのか。（28 年 9 月地元会議）
- ・100 億円をかけてまでつくる意味・意義を伝えてほしい。（28 年 9 月地元会議）

(2) 建設予定地隣地住民聞き取り

ア サービスについて

- ・新しい博物館は、ぜひ観光に結びつく画期的なものをつくってほしい。松本らしさにあふれた文化・観光・食べ物・人物を紹介できるサロンやホールのようなものであってほしいし、商売をしている人だけでなく住んでいる人の意見も取り入れたものとしてほしい。
- ・博物館には若い子たちが来るようにしてもらいたい。そのためにぜひ楽しいもの・場にしてほしい。人が滞留しその中で流れるようにしてほしい。博物館が17時で閉まって、辺りに何もなくて、人通りも途絶えてしまうようにはしてほしい。

イ 建築について

- ・地下水に影響が出る恐れがあるため、地階はつくらないでほしい。
- ・建物が敷地に接すると圧迫感があるため、敷地ギリギリまでは建てないでほしい。高さ等景観にも配慮願いたい。目隠し等も配慮願いたい。
- ・生業として太陽光が入ってこなくなってしまうと非常に困る。博物館の建物位置には注意してほしい。
- ・別館をつくり、そこに商業施設を入れるよう検討していただきたい。

(3) 新しい博物館を考える市民のワークショップ（平成28年11月開催、お城周辺地区まちづくり協議会・歩いてみたい城下町まちづくり連合会）

資料1－8参照

3 市議会

(1) 館の位置付けについて

- ・基幹博物館は松本の歴史、文化、そして松本城の歴史、資料等を知る学ぶ場にもなり、よって、松本城に近いところが望ましい。（24年9月議会）

(2) 展示について

- ・基幹博物館は、自然科学の充実も含め、市民、観光客が松本の自然と文化を楽しく学ぶことができる展示構成などもあわせて検討していく。（27年12月議会）
- ・自然科学分野を充実してほしいという意見がある。（28年9月特別）

(3) 建築について

- ・お城を中心としたまちづくりをすすめる中で、建物自体、景観・高さ等に配慮した街並みやまちづくりの中での指針、見本となるような建築物となることも大切。（24年9月議会）
- ・基幹博物館建設にあたっては、高さ、デザイン等、三の丸地区の景観、文化に配慮し、三の丸地区の今後の整備の象徴となり、また松本城と市街地、城下町をつなぐ核となり、まちのにぎわいや魅力向上に寄与する存在となってほしい。（28年2月議会）

(4) その他

- ・予算の規模について、精査していただきたい。（28年6月教民）
- ・物産館の併設について検討していただきたい。（28年6月教民）
- ・今現在テナントとして入居されている方々への配慮をしっかりと進めていただきたい。（28年9月特別）

- ・外国人の方にも話を聞き、こういう博物館があったら行きたいとか、そういうものを反映していただきたい。(28年9月特別)
- ・どのような経過で、どのようなふうに決定されたかしっかりしていただきたい。(28年9月特別)
- ・基幹博物館基本計画と施設構想について(28年12月議会)

4 博物館関連団体

(1) 博物館ボランティアグループ エムの会(28年9月意見交換会)

ア 館の位置付けについて

- ・松本城に負けないような博物館にしていただきたい。

イ 展示について

- ・「いつ来ても同じ展示」と言われることが多い。
- ・展示する資料も、身近なモノ(少し昔の道具や衣類)があることで、来館者同士の話題にもなる。身近なもので伝えてほしい。
- ・体験できる空間・場がほしい。
- ・郷土の部屋(偉人や松本の特徴的な事件を取り上げる)や博物館の成り立ちを展示できると良い。

ウ サービスについて

- ・行事食を提供するためには、今の施設よりも広いスペースが必要。他施設を借りずに調理できるようにしていただきたい。
- ・現在の控室は館の奥になり不便を感じる。表の方に位置付けてもらいたい。

エ 建築について

- ・お城が見える窓があったり、屋上から山並みが見えたりすると良いのではないかな。

オ その他

- ・事業に関する周知が不足しているのではないかな。

(2) 松本まるごと博物館友の会(28年11月意見交換会)

ア 展示について

- ・生糸についての展示テーマがない。
- ・(仮称)親子の博物縁について、「遊びを通して学べる」よりも「体験」というフレーズの方がよいのではないかな。
- ・国産農業機械についても優れた実績を有しているので、その点も含めて展示していただきたい。

イ サービスについて

- ・クエスチョンデスクを設けてはどうか。
- ・食文化も大切なので、調理室を設けていただきたい。
- ・ご年配の方の話を聞く場を設けるのは、学芸員にとっても必要ではないかな。

ウ その他

- ・学芸員の常駐や専門化について検討していただきたい。
- ・中学生や地区との連携を進めてはどうか。故郷がどういうものだったか知っておいてほしい。
- ・どんな客層が来ているのか分析を進めるべき。

- ・コレクション保管室のようなものを設け、他のものとランクが上の空間で保管できないか。

(3) 市民学芸員の会（28年11月意見交換会）

ア 館の位置付けについて

- ・博物館が「イベント屋」にならないように。イベントがないと博物館に行かない、ということがないように。
- ・検討のベースに常に市民が位置付けられているようにしていただきたい。

イ 展示について

- ・地区公民館で展示する等、地域との結びつきを出してもらいたい。
- ・館の入口で、松本全体を理解しうるような映像などを上映してはいかがか。

ウ サービスについて

- ・敷居の高そうなレストランよりも、気軽に立ち寄れるカフェの方が望ましい。
- ・ミュージアムショップの拡大・充実をお願いしたい。

エ その他

- ・資料の保管について、保管者の視点はあるが、利用者の視点が無い。依頼すれば資料がパッと出てくるようなものが構想に位置付けられればよい。
- ・早く資料登録を行っていただきたい。

(4) 博物館協議会（24年10月～）

第1回松本市基幹博物館施設構想策定委員会資料1－6参照

ア 館の位置付けについて

- ・二度三度と、もう一回いってみたいと思わせる博物館にしてほしい。
- ・博物館に行けば何かが得られる期待感、「ちょっと博物館に行ってくる」というフレーズが出てくるような身近さ。
- ・館を起点にして外へ広がる視点が大切。
- ・社会的共通資本として、市民が気楽に訪れ、親しみやすく、ゆっくりでき、心休まる場所。
- ・市民の学ぶ力を伸ばす場所、市民の文化力を育てられる博物館でありたい。
- ・客の大小を言う前に、心に残り、影響力を与えられる博物館になること。

イ 収蔵について

- ・収蔵庫を充実してほしい。ただし収蔵庫の中がどういう状態がいいのか考えること。何でもかんでも収納するという考えではなく。
- ・他館との機能分けをしたうえで、収蔵庫の大きさも考慮して決めること。
- ・なんでもデジタル化というわけにはいかないが、「どこでも見られる」は大切ではないか。また、デジタル化したものについては、セキュリティ（加工や流用）や著作権に注意が必要。
- ・収蔵検討委員会を設ける必要があるのではないか。
- ・収蔵庫の見える化
- ・資料の分散管理も必要ではないか。

ウ 展示について

- ・合併地区の展示を2～3はほしい。
- ・展示会にどれだけ人を呼び込めるかを、危機感をもって考えること。

- ・市民学芸員の日常的な勉強の成果を発表できる機会・場があると良い。
- ・子どもにわかりやすいというよりも、調べたくなるような見せ方が大切。
- ・分館の資料展示を年間通じてできればよい。
- ・松本市（旧1市1町4村）の展示
- ・資料の「なぜ魅力なのか」
- ・伝統行事や地域のお祭りの3D映像
- ・資料や伝えたい・訴えかけたいことの特性を踏まえ、実物重視・体験重視の展示構成を検討していただきたい。
- ・スマートホン等を利用した説明の実施。
- ・大規模巡回展の開催は、東京などにいかなくても見られるという観点では、市民の利益になる。
- ・市民要望を取り入れながら特別展が開催できれば、「私たちの博物館」度も増すのではないかな。
- ・特別展に子供向けのキャプションを用意できないかな。
- ・ガラス越しにでも、発掘された遺構を見られる「現場展示室」があると魅力的。

エ サービスについて

- ・子どもたちが集まって学習できるフリースペースがあるとよい。
- ・「子どものため」だけでなく、「高齢者のため」も必要。
- ・会議やカルチャー教室などにも利用できる貸室を設けたらいいかな。
- ・来館者への図書・情報提供をしっかりと行うべき。中央図書館とのデータ共有や閲覧ができないかな。
- ・学芸員の得意分野も生かした学習支援があってもよい。
- ・単なる土産物屋でないミュージアムショップを。商工会議所や企業との連携が必要。

オ 建築について

- ・使いやすさを前提にしてほしい。デザイン重視ではなく機能重視にすること。
- ・ランドスケープデザインの観点が重要。周囲の景観にマッチする。
- ・建物周囲には、湧水や緑を取り入れ、ミニビオトープの空間ができると良い。
- ・明るく入りやすい外観。
- ・防災の観点は重要だが、木材を利用し温かさや優しさを出してほしい。
- ・「松本らしさ」をよく考える必要がある。ここでいう「松本」に旧合併域の意識は含まれているか。
- ・周囲のまちづくりと一体として考えること。
- ・安全性への配慮。

カ その他

- ・情報ネットワーク化、インターネット社会への対応が不可欠。
- ・多方面での連携（基幹博物館として分館はもとより、地域の博物館・社会教育施設や大学・企業等）は極めて必要。協賛企業も必要。
- ・子どもも大人も調査研究の過程を知れ、触れられ、継承することの大切さを学ぶ場が必要。
- ・質の高い学芸員の確保。学芸員の人材育成は極めて重要、あわせて市民学芸員や

ボランティアの育成も急務。

- 学芸員の趣味ではなく、博物館として何を訴えたいかを持ち、調査・研究を行うべき。
- 専門家と事務の円滑な協力体制がとれるように。
- 民間活力の検討も一つの方策ではないか。
- 身障者や外国人観光客への細やかな対応の工夫が必要。